

穂学



令和4年度

広州日本人学校 学校便り

[No.6]

令和4年7月6日(水)

発行責任者 校長 加藤康德

「いい加減は、いい加減！」

「いい加減」という言葉。この言葉に出会ったのは母から「いい加減にきなさい！」と言われたのが初めてだったような気がします。以来、今度は自分が父親となり、逆に「いい加減にしろ」と我が子に言い続けることになりました。立場が逆になりながらもこの言葉には全く良い思い出は無く、ネガティブなイメージしかもっていませんでした。しかし、教職について数十年が経ったときに参加したある管理職研修会で、講師の方が最初に発した言葉がとても印象的だったことを今でも覚えています。

「仕事はいい加減にするものだ。」

はじめは「この人は何を言っているのだろう。」と思いましたが、話を聞いていくうちに「いい加減」には形容動詞的用法において、2つの意味があることが理解できました。

- ① ちょうどいい程度だ。(ポジティブ)
- ② 大まかで無責任だ。(ネガティブ) ※参考文献：例解新国語辞典(第四版)三省堂

働き方改革が叫ばれ始めていた当時、過去の自分自身のトラウマに囚われ、思い込みで数十年を過ごしてきた自分が少し恥ずかしくなりました。

「いい加減」という言葉の持つ意味と「仕事の量と質の関係」、そして「仕事のやりがい」について考えさせられた研修会でした。

そう言えば、最近は広州日本人学校の校長として様々な交渉の場に参加することが多いのですが、その都度考えさせられることは「交渉とはいいい加減なところで終わる」ことです。「主張するところは主張する、受け入れるところは受け入れる」正に「いい加減」なところで決着をさせなければ物事は進まないことが分かりました。

「いい加減は、いい加減！」

言葉とは言う側、聞く側の思い込みや場面、イントネーションなどで意味が違ってくることがあります。そう考えると何だか過去に様々な人に言われてきた「いい加減にしろ！」という言葉も、今更ですが、不思議と怒られていた感じがしなくなってくるのは私だけでしょうか。(言われていた息子の気持ちはこの際無視します。)

昨日の全校集会で「いい加減」の持つ意味について子ども達に話をしました。日本語の難しさと同時に不思議さ、楽しさ、面白さについて感じ取ってくれていることを願います。



「小学部6年の修学旅行（6/28～7/1）が終わりました。」

小学部6年生42人が修学旅行で仏山市、肇慶市を訪問してきました。また、この修学旅行では様々なつながり（日本と中国）を学ぶことができ、大変有意義な修学旅行だったと考えています。

○写真上：硯博物館では「硯」の見学と硯づくりを体験しました。日本と比べると中国の硯は実用というよりも芸術的な価値を持っていることを学びました。

○写真中：南風古灯の陶器の里で登り窯を見学しました。登り窯は中国で開発され朝鮮半島を経て日本に伝来してきたようです。

○写真下：ドラゴンボートを体験してきました。ドラゴンボートの起源は日本の端午の節句や、「ちまき」の起源とも関係していると言われています。



上



中



下

<学校経営のスローガン>

「つながり」を「未来に実感」させる
広州日本人学校の創造

<大切にしている5つのつながり>

- ①先生とのつながり
- ②授業とのつながり
- ③友だちとのつながり
- ④保護者・日本人社会とのつながり
- ⑤中国とのつながり



「6月17日（金）に開催した社会人マナー講座について」

广汽トヨタにお勤めの川村勇佑様を講師に迎え、中学部3年生を対象に「職場体験学習事前社会人マナー講座」を開催しました。講演では「遅刻は厳禁」など社会人としての心構えについて資料を生徒たちに見せながら丁寧にお話して頂きました。ありがとうございました。

<マナー講座をうけて（生徒達の感想）>

○今回の講座を聞いて、社会人に大切なことはマナーと時間管理だということを何度も言われました。本当にその通りだと思います。仕事への関心が低いと、おのずと上辺だけのマナーだというのはすぐにばれてしまいます。学歴よりも人柄を見る。IQよりもEQ。そんな時代になってきていることをこのマナー講座で感じ取ることができました・・・

○・・・今回の講座で「自分ができること以上の挑戦」を続けることで自分の長所、短所が分かると教わりました。長所を伸ばし続けることが強みにつながっていきます。「挑戦」、そして「長所を伸ばす」。この2つをセットに自己成長につなげていきます。

○・・・今回、日本を代表する大手一流企業の方に講義をして頂いたことは私たちにとってとても貴重な体験となりました。「社会人でも習得するのが難しい」と聞き、果たして社会に出たこともない我々がそれをこなせるのか不安ですが、「マナーは相手のためと想って行動すること」を胸に、職場体験先で活用させて頂きます・・・